

日露戦争の世紀

—連鎖視点から見る日本と世界—

210781109 水野友乃

本書の目的

- 「世紀」における日本の歩みを、日露戦争に向けて生起していった事柄をその国際的背景の中で探索
- 日露戦争を経て起こってくる様々な事象の世界的つながりと意味を探索

目次

- 1章 近代国際社会への参入
- 2章 東アジア国際情勢の変化
- 3章 日露開戦へ
- 4章 二〇世紀最初の世界戦争
- 5章 世界とのつながり、日本へのまなざし
- 6章 主戦論と非戦論の世紀

1章 近代国際社会への参入

- ア) 万国公法による国際社会への参入

- a) 1854年日米和親条約

- 1855年日露和親条約を締結

- b) 明治国家は「宇内の公法」を遵守することを宣言

1章 近代国際社会への参入

- イ) 明治日本と中国、朝鮮の国際関係
 - a) 対中国：国際法体系によって再編していく外交方針
 - b) 対朝鮮：新しく天皇の名をもって国交開始を要求→ 受け入れ不可

2章 東アジア国際情勢の変化

- ・ア) 三国干渉

- a) 日清戦争

- 清：属邦保護
 - 日：東洋全国の平和

- b) 下関講和条約

- 東アジア世界に新たな緊張を発生させる原因

3章 日露開戦へ

- ・臥薪嘗胆

臥薪嘗胆：三国干渉で返還した際、復習の日まで我慢しようという意味でのスローガン

従事に非常の不快

→全国各地で暴動

→爆発が発生

4章 二〇世紀最初の世界戦争

- ロシアにおける日露戦争

ロシアの日本に対する視点

→無関心、無知識、太平洋中の小さな島国

ロシア国内の農民や労働者

→反政府運動が頻繁

5章 世界とのつながり、日本へのまなざし

- ・ア) 日露戦争の衝撃

全アジア民族は打倒ヨーロッパ思想

- ・イ) 社会主義思想の連鎖

アジアからの留学生が日本へ

→法、教育、軍事・警察、農業、経済を習得

6章 主戦論と非戦論の世紀

- ア) 地方改良運動

戦争絶対的廃止論者の誕生

→戦争は人を殺害の可能性

→しかし、人の殺害は大罪悪

→日本自身が軍備を全廃すべきと主張

まとめ

- 時代や環境の違いによって価値観も世界観も異なる以上、歴史は見る人の立場によって変化
- 以上の点を理解し今後の行動につなげることが大切